

## 「第5回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

### ■市民意見募集の実施結果について

- ・このプロジェクトは、あまり似たような事例がないので、関心の高さが表れているのか、前向きで熱心な意見が多いように思う。
- ・これまでの議論と大きく異なる意見はない印象。計画完成後は、より多くの人々がこれを知ることのできる工夫をすると良いと思う。
- ・今回の意見募集のように関心が高いなら、これを一過性にするのはもったいなく、今後も事業の進捗を周知する機会があると応援団が増えていくのでは。
- ・本会議で出ていなかったアイデアも多く含まれており、この中からキーワードを抽出して傾向を把握することで、今後の計画の参考になるのではないか。
- ・意見を見ると、レジデンスやトリエンナーレ等、これまでのアジア美術館の活動が評価されていると感じた。これまでの取組みが理解されていることはこの事業の強みだと思う。

### ■基本計画(案)について

#### (第3章 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針について)

- ・第3章第2節において、アジア美術を楽しむことだけでなく、その広がりや深みの部分をもう少し盛り込んでほしい。美術の向こうにある、アジアの地域の歴史や文化、社会的背景への理解を深められることもアジア美術の特徴であり、そうしたものに触れられる面白さは、この館の本質的な価値であると思う。
- ・アジアという概念は常に流動的で、今も大きく変化しつつある。拡充先の展示スペースが大きくなるのであれば、その流動性や概念の変化を取り入れた様々な企画や、何年かに1回、大規模な展覧会を開催するのもいいと思う。

#### (第6章 アジア美術館の管理・運営計画について)

- ・第3章で示されているように、アジア美術館の活動には多様な主体が関わるのが重要であり、管理・運営の考え方においても、職員以外の一般の方々が積極的に美術館活動に関わることができる仕組みを作ることが必要であると思う。
- ・開館前からウェブサイトに進捗状況を発信することでワクワク感が増し、そうした発信から人々の関心を引き寄せていくことができるのではないか。市民をどう巻き込んでいくか、開館前からの活動も非常に大事だと思う。ファン層を集めていくために、ワークショップなどで市民に意見を挙げてもらうと、今回の意見募集とはまた違った意見が出てくるので、効果があると思う。
- ・広報活動の充実とデジタル活用は分けて考えるべきだと思う。広報は、発信だけにとどまらず、美術館のファンとの相互のコミュニケーションの充実といった活動も入ると思う。
- ・現段階からデジタルの活用を意識して、建築、展示、運用の計画を連動させて、議論をしていくべき。様々な展開を想定した高度なデジタル環境を整えることが大事だと思う。

#### (第7章 事業手法について)

- ・ここで述べるのは事業手法だけではなく、市の姿勢を記載した方が良いと思う。整備面において、民間の知見も大事だが、市の中で土木、建築、公園、教育、文化などの分野に詳しい人材を横断的に集め、プロジェクトチームが形成されるような体制になることを期待したい。これらを踏まえた章題を検討した方がよい。
- ・新築ではなく、前例のない難しい面も考えられる事業で、想像できないような問題が発生する可能性があり、途中で変更ができる、柔軟に対応ができるような仕組みにする必要がある。